

単元名 言葉について考えよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使い、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。
- (2) 目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように表現を工夫して書き、その文や文章を整えることができる。
- (3) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、手紙を書こうとする。

標準的な展開例

05010306_001

【教材名】 伝わる表現を選ぼう (P. 202～P. 205)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 相手に応じた言葉の選び方について考える。</p> <p>★相手に伝わる表現を選ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内容や言葉は正しいのに、相手に伝わらなかった経験について話し合う。 ○教科書(P. 202)「相手に応じた言葉を選ぼう」を読み、示された例文を一年生向けに書き換える。 <p>2 意図に応じた言葉の選び方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(P. 204)の例を読み、どのようなすれ違いが起きたのかや、どうすればよかったのかについて話し合う。 <p>3 言葉や表現に気を付けて手紙を書き、読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手と意図を決め、手紙を書く。 <p>○手紙を読み合い、助言し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に理解してもらえなかったり、誤って受け取られた経験を思い出させる。 ・教科書(P. 203)に示された三つの視点で、一年生に向けた文に書き換えさせる。 <p>【評】 示された例文を一年生に向けた文に書き換える活動を通して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって考えることが大切であることに気付かせる。 <p>【評】 どのようなすれ違いが起きたのかを考える活動を通して、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P. 205)「言葉や表現に気を付けて、手紙を書こう」を読み、流れを確認する。 <p>【評】 手紙を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「相手に応じたものになっているか」「意図が正しく伝わるか」などの視点で読ませ、助言させる。 <p>【評】 手紙を読み合い、助言し合う活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】